みなと元町 タウンニュース TOWN NEWS No. 321

発　行:みなと元町タウン協議会　住　所:〒650-0022 神戸市中央区元町通3-13-1協和会館内　発行人:奈良山喬一　編集人:岩田照彦　電話・FAX:078−391−0831

ゴールデンスポーツイヤーズ初年 ラグビーワールドカップ2019™日本大会がいよいよ開幕

神戸市 市民参画推進局長　**岡田 健二**

みなと元町タウン協議会のみなさまには、平素より本市行政にご理解とご協力をいただいておりますことにまずは御礼申し上げます。

みなと元町タウン協議会のみなさまにおかれましては、設立以来30年近くにわたり、元町周辺地域の魅力の向上及び活性化を図るため、本紙「みなと元町タウンニュース」による継続した情報発信や神戸元町ミュージックウィーク等のイベントなど、さまざまな活動に取り組んでこられました。まちづくりにおいて必要不可欠なこのような自発的な活動を、途切れることなく継続して実施していただいておりますことに深く敬意を表します。

さて、今年の秋にはいよいよ、ラグビーワールドカップ2019が開幕いたします。また、同時期に現代アートを中心とした「アート・プロジェクトKOBE 2019：TRANS- 」を開催する予定です。

ラグビーワールドカップは、ワールドラグビー（World Rugby）が主催する4年に一度開催されるラグビーの世界大会で今回が9回目。ラグビー伝統国以外の国、そしてアジアでの初めての開催となる記念すべき大会です。大会期間は本年9月20日(金)から11月2日(土)までで、優勝チームに与えられる「ウェブ・エリス・カップ」をかけて、国内12会場で全48試合が行われます。

神戸の試合会場は、2002年にサッカーワールドカップが開催された神戸市御崎公園球技場です。実際にラグビーやサッカーを観戦されたことのある方はご存知だと思いますが、観客席とピッチの距離が近く、ゲームの臨場感、ピッチとスタンドの一体感にあふれた球技専用スタジアムです。このスタジアムで、ワールドランキング1桁のイングランド、スコットランド、アイルランド、南アフリカのほか、アメリカ、ロシア、サモア、カナダの計8チームを迎え、体と体がぶつかり合う、スピードとパワーに溢れるプール戦4試合が行われます。なお、これら8チームのうち、アイルランド、イングランド、スコットランド、南アフリカ、カナダの5チームについては、神戸は公認キャンプ地にもなっています。

神戸での試合開催日を中心とした8日間はメリケンパークに、「ファンゾーン」を設置します。ファンゾーンは、誰もが無料でラグビーの魅力や楽しさ、スポーツの楽しさを感じてもらうことができるラグビーのお祭り広場です。ダンスなどのパフォーマンスステージを行ったり、試合のパブリックビューイングができる大型ビジョンを設置したりするほか、ラグビーワールドカップ公式スポンサーによるブース展開、神戸独自のコンテンツとして、故平尾誠二さんの思いを共有できるような「平尾誠二パーク（仮称）」を実施する予定です。チケットをお持ちの方は試合観戦の前に、チケットがない方も試合の雰囲気を楽しんでいただけるよう、現在準備を進めているところです。

また、国内外からの来神者に向けた取り組みとして、大規模な現代アートの祭典、「アート・プロジェクトKOBE 2019：TRANS- 」を、9月14日（土）から11月10日（日）まで、新開地、兵庫港、新長田の3地区で開催します。具体的には、国内外において第一線で活躍する現代アーティストであり、美術のオリンピックといわれるヴェネツィア・ビエンナーレにおいてそれぞれの母国の代表作家を務めた経歴を持つ、ドイツ出身のグレゴール・シュナイダー氏と兵庫区出身のやなぎみわ氏が「TRANS- 」をテーマに、見慣れた風景を一変させ、異次元の空間へと「飛び越える作品」を発表する予定です。

これらの取り組みにより、ラグビーワールドカップ観戦を目的とした観光客に、単に試合観戦にスタジアムに行くだけではなく、市営地下鉄海岸線のエリアを回遊していただき、「港だけじゃない、面白い街　神戸」を、神戸ならではの食の魅力も組み合わせて体感していただき、大会が終わった後もまた神戸に来ていただきたいと考えています。

最後になりましたが、大会期間中、選手・チーム関係者だけでなく、国内外からたくさんの方々が神戸にお越しになります。「神戸にきてよかった」と思っていただくためには、神戸をあげての盛り上がりが必要で、市民のみなさんと一緒になって楽しんでもらえるかがポイントです。今後もより一層のご協力をお願い申し上げますとともに、みなと元町タウン協議会のみなさまのより一層のご活躍とご発展を祈念いたします。

【元町・夢街道】(225)

書店の話(23)

兵庫県書籍雑誌商組合④

岩田 照彦

柏佐一郎の業界活動にはもうひとつあった。全国書籍雑誌商組合地方協会である。

全国にさきがけ組合を発足させた兵庫県の動きに触発され、大正八年から各府県でも組合が次々と設立されていた。同年十月、各府県に生まれた書店組合の統制機関として「全国書籍商組合連合会」が結成される。兵庫県の組合設立から十三年後のことである。

しかし構成員は、府県代表者の多くが出版業者と直接利害関係にある取次業も行う書店主だった。当時、副組長だった川瀬光吉は「全国連合会の一般の利害に関する要望が頗る不活発に反映した」という。そこで小売業者は大正九年十月、全国連合会総会前に小売商の要望をまとめた議案を提出するための機関として「全国書籍雑誌商組合地方協会」を設立する。

ここでも柏佐一郎は、前回紹介した書籍運賃低減のため、全国の要望をあつめて鉄道省へ請願書を提出するなど、精力的に活動した。柏の活動は、書店主が厳しい環境の中におかれるなか、兵庫県にありながら地方協会でも目立つ存在になっていく。昭和六年十月、兵庫県は地方協会の常任委員長になり、県内で同協会の事務も引き受けた。

全国の書店をまとめる立場上、各地へ出向く機会も多かったようだ。地方協会と関西の業界を代表して東京代表らとともに別府で開かれた九州業界の出版販売懇談会などにも出席、柏は地方協会の代表として東奔西走の毎日を過ごすことになる。

柏が取り組んだ事案の例として昭和十一年五月、全国書籍雑誌商組合地方協会委員長として全国書籍雑誌商組合連合会あてに、定価引き上げ、加入の制限、販売業者の仕入定価のすみやかな実施を骨子に提出した「業界革新に関する建議書」からその取り組みを紹介しよう。

書籍雑誌の原価値下げは、名古屋を中心に中部各県の会合で原価八掛けが決議され、京都でも四月号雑誌は原価八十五掛けより支払わぬと決議、大阪では原価低下の実行運動を起こすことを決めたほか、幹事が上京して原価低下運動を計画していた。これは出版点数の増加によるもので、出版、取次、小売三者が話し合い、統制するべきである。

書籍の定価を一割から二割引き上げ、書籍小売は百分の四十五、出版及び取次は百分の五十五、雑誌は小売百分の五十、出版及び取次百分の五十とする。小売業者増加による販売高の減少を避けるため、向こう五年間新規組合加入を認めないとし、組合員資格の譲渡は家督相続と遺産相続、現組合員を代表者とする会社に組織変更する場合に限る、とした。

柏は兵庫県書籍雑誌商組合組長の立場を超え、全国書籍雑誌商組合地方協会の会長として、日本の小売書店業界のため、その救済に敢然と立ち向かったのである。

神戸元町商店街 楽市楽座情報 5月

◇神戸元町商店街連合会　TEL391−0831
元町シスターズ こどもの日に歌う
5月5日(日)14時～　元町1番街ユニクロ前

◇元町1番街商店街振興組合　TEL331−7850
占い市　5月8日(水)12時～17時
水曜市　5月15日(水)11時～19時

◇元町3丁目商店街振興組合　TEL322−2797
こどもの日スペシャルイベントin3丁目
5月5日(日)12時～17時　カルディ横

◇元町4丁目商店街振興組合　TEL366−2636
GWわ<わ<バルーンショー
5月6日(月)12時～　14時～　16時～
生和コーポレーションマンション前

◇元町5丁目商店街振興組合　TEL341−6819
第31回元町児童絵画コンクール展
4月27日(土)～5月6日(月)まで　11時～18時
元町5丁目マジックパラダイス
5月5日(日)11時～17時

◇元町6丁目商店街振興組合　TEL367−5477
元町6丁目鯉のぼりロード
4月20日(土)～5月17日(金)
モトロク市　5月4日(土)11時～17時
（毎月第1土曜日開催）

◇風月堂ホール(有料)　TEL321−5555
もとまち寄席「恋雅亭」　5月10日(金)
笑福亭 喬介　桂 阿か枝　林家 花丸
桂 九雀　林家 小染　笑福亭 福笑
前売券は4月11日より風月堂で発売

◇こうべまちづくり会館ギャラリー(無料)　TEL361−4523
2019年4月より休館中(改修工事の為)

◇元町映画館(有料)　TEL366−2636
5月4日(土)～5月10日(金)
「ルイス・ブニュエル監督特集」
「村田朋泰特集 夢の記憶装置」
『ザ・スリッツ：ヒア・トゥ・ビー・ハード』
5月4日(土)～5月17日(金)『マチルド、翼を広げ』
『世界一と言われた映画館』・『台北暮色』
5月11日(土)～5月24日(金)『眠る村』
『風たちの午後』
5月11日(土)～5月31日(金)『ニジノキセキ』
5月18日(土)～5月24日(金)
『心の故郷 ある湾生の歩んできた道』
5月18日(土)～5月31日(金)『誰がための日々』
5月25日(土)～5月31日(金)
『選挙に出たい』・『新宿タイガー』
5月25日(土)～6月7日(金)『ぼくの好きな先生』
5月25日(土)～6月14日(金)
『マイ・ブックショップ』

栄町通クリーン作戦

栄町通まちづくり委員会は4月12日（金）10時から10時30分まで、栄町通を中心に、ゴミ拾いと不法ビラ撤去、自転車・バイクなどへの不法駐輪警告チラシ取り付け作業など、栄町通クリーン大作戦を実施した。参加者は、（元栄海3丁目協和会）奈良山喬一、（神戸市景観政策課）西山昌樹・川口雄也、（兵庫県信用組合）仲川雅夫・亀田仁・古門佑樹・豊明子、（㈱広島銀行）嘉本光洋、（パナソニックホームズ㈱）鈴木京子、（神明ホールディングス）前田忠重、（神明倉庫）藤尾憲弘・十時実希、（㈱イーエスプランニング）新宅彩潔子、（三鈴マシナリー㈱）野田常美、（走水神社）兒嶋英毅、（新光明飾㈱）西村友博・藤田直之・大森貴美子、（佐田野不動産㈱）佐田野宏之以上、19名のみなさんでした。毎月第2金曜日午前10時、栄町通6丁目佐田野不動産前集合の上、実施しています。お気軽にご参加ください。

編集後記

神戸駅近くの小さな広場にD51型の機関車が正座している。神戸駅の山側広場からも、浜側広場からも、その雄姿は視界の外にある。ちょっと東の方へ入り込んだところに位置しているからだ。機関車は以前、きらら広場に居を構えていたが、車を運転する人の視覚上、交通障害になるとの理由から現在地へ移転した。高架下を行き来する車はかなりあるが、徒歩の人には元町方面から神戸駅へ向かう人、帰る人のほか、目にすることは難しい位置関係にある。機関車沿いの道を歩くとき、カメラを構える人によく出くわす。D51の人気を証明する一幕だ。眠り続けてきた機関車だが、その存在を楽しんでもらう術はないか、JR・OBとともに、頭を悩ます人が身近な地元にも現れた。今年は、東海道線開通百二十五年にあたる年という。地元としてD51がどんな夢をみせてくれるか。

海という名の本屋が消えた（66）

平野義昌

がしんたれ・菊田一夫の神戸（2）

和吉は裕福なお嬢様・尾形美也子の叱咤激励によって勉学の気持ちを取り戻した。その一方、正吉によって自分よりも恵まれない立場の人たちの存在を知る。

和吉は正吉に、県立商業進学を断念し夜学に通うことを打ち明けた。正吉は応援が無駄になったことより和吉の希望が叶わなかったことに同情し、貧困・差別を嘆き涙ぐんだ。和吉は正吉のおおげさな感情を鬱陶しく思う。和吉は「貧困」を実感しているが、まだ「差別」を理解していない。

正吉の母親は勉学意欲のある息子のため日東書店の主人に、せめて本をいつでも読める場所で働かせてほしい、と奉公を願った。主人は理解を示し雇入れ、他の従業員に正吉の境遇を明かさなかった。(補註1)

和吉は夜学生活で新たな出会いをする。

〈神戸市立商科実業学校は、箱庭細工のような小さな学校だった。(中略)古びた木造の校舎は二階建てだが、コの字の中央の庭はピンポン台一台置いて生徒がゲームをやると、残りは人がやっと通り抜けられる程度の広さである。〉註・補註2

夜学の生徒は外人商館の新米番頭、ホテルのボーイ、銀行員など40人あまり。年齢40歳超の人もいて和吉が最年少だった。和吉は進路変更にあたって、3ヵ条の決意をした。

(1)毎月15銭の貯金をする(切手貯金、15銭切手100枚で満了、その額面の郵便貯金通帳を作成してもらえる)

(2)世界の文豪の本を読む

(3)商人になるが、高邁な心を持った詩や歌の分かる人間になる

(1)は商人として独立するための資金づくり。

(2)(3)は夜学で知り合った神戸新聞の給仕・大塚の影響である。まず、詩の同人誌『詩しき湖』(実際は『新しき潮』らしい)に誘われ入会する。給料50銭から会費1月20銭を払い、15銭貯金、10銭で必要なものを買い、5銭は月1回の映画代である。美也子が自分を高尚な人間と思ってくれるなら20銭も惜しくなかった。初めての作品は幼い頃の養母との放浪生活の思い出。ペンネーム「岸田薫」。

〈大空小空／くもり空／母ちゃん帰ろよ／雨が降る／お宮の縁も／寒いけど／野原で寝るよりましだもの〉註

同誌主宰者・村上たつま(補註3)は、詩は稚拙だが初めての作品にこれだけ生活感情を盛った人は少ない、と評価した。

同じ号に村上の詩もあった。

〈部落民は／かなしかりける／いつも／赤き目をして／泣きいるかな〉註

和吉が美也子に掲載誌を送ると、手紙でペンネームについて質問があった。和吉は、自分が丁稚と知られることが恥ずかしいから、と返事を書いた。美也子からの連絡が途絶えたが、同人誌に入会してくれていた。

大塚は和吉に読書の大切さも教えてくれた。和吉はどんな本を読むのか訊かれ、立川文庫の忍術の本と答えた。大塚は、忍術も結構だが面白いだけで何のたしにもならない、世界の文豪の小説を読め、まずトルストイ、と勧めた。和吉は図書館に行く。

〈神戸市のうちでは住宅街として、粒がそろっている、といわれる中山手通りを、湊川の方向にむかうと、その右側の小高い丘に大倉山公園がある。その中腹に市立大倉山図書館がある。そこでは誰か保証人を立て、その保証人の納税領収書を示せば、館外貸出もしてくれる。和吉は珍物屋商会の主人に頼んで、納税領収書を貸してもらい、生まれてはじめての図書館通いをやった。〉註

緊張しながら係の女性にトルストイの本を貸してほしいと申し出た。女性の、丁稚がトルストイ、という反応に和吉はむかつくが、抗議する勇気はなかった。図書のカードで本を探して借り出し伝票に書くのだが、大塚に教わった書名『戦争と平和』『アンナ・カレーニナ』を忘れてしまった。仕方なくドストエフスキーの『カラマーゾフの兄弟』と『死人の家』を借りる。トンチンカンながら、これを読めば偉い人になれる、と素直に思った。

和吉は正吉の母親が病死したと知り、ご寮さんに断わって葬式に行った。場所を言ったことで後々正吉に迷惑がかかる。和吉は被差別部落地区に足を踏み入れ、劣悪な環境に驚く。正吉宅で村上たつまと初めて会った。村上はセキツイカリエスのため身体に障碍があった。和吉は、丁稚であることを恥ずかしい、と言ってしまう。村上は、詩が好きならそれでよい、と応えた。正吉が部落差別について和吉の無知・無理解を怒った。村上が正吉をなだめてくれたが、正吉は、「和吉とんには、まだ分かってもらえん」と口を閉ざした。帰り道、近所の住民たちが村上の身体を「優越感をまじえた、憐憫の意識」註で見て囁きあっていた。村上は、自分の身体と被差別者の憤りは同じ種類のものだ、と差別の歴史・不条理について話してくれた。

秋になり、図書館で美也子に会う。7ヵ月ぶりである。彼女は和吉にペンネームのことで直接文句を言うため珍物屋を訪ね、図書館に行っていると教えられ追いかけて来たのだ。

〈そこは神戸港を一目に見おろす丘の中腹で

その白いベンチに腰をおろして見ると、遥かな兵庫地区の街並を越えて右手の海際には、川崎造船所の巨大なクレーンが工場地帯の煙にかすみ、そのずっと左手の海には、幾条かの突堤が欧州やアメリカにいく旅客船の折目正しい姿を抱いて浮かんでいる。〉註

美也子は和吉を、ド阿呆・ひがみ根性・ド甲斐性なし、と罵倒する。ぼんぼんであろうと丁稚であろうと人間にちがいはない、と叱った。和吉は美也子に見捨てられていなかった。今後は本名で詩を発表することを約束した。美也子に頼まれ家まで送って行く。

〈美也子を積んだ和吉の自転車は、大倉山公園の丘をくだって、その山裾と大きな病院の塀にはさまれた崖道をまっすぐ登る。左側には監獄があり、後に株式取引所が建造された広場があった。その広場を横切って左に抜けると五郎池とよぶ市電の停留所があり、その次が奥平野の終点である。〉註

美也子は歌を歌い、自転車がよろけると和吉にしがみつく。お巡りさんに二人乗りを注意されるが、美也子は病気で病院に行く、とごまかす。美也子が宝塚歌劇に誘う。和吉の胸ときめく初恋である。

和吉が正吉の母の葬儀に行ったことから、番頭・鶴吉が正吉の素姓を近所の丁稚たちに広めた。正吉は仲間はずれにされた。夜遅く、重吉は鶴吉と丁稚たちを集合させ、正吉をいじめるなと肥後守(文房具小型ナイフ)で脅した。重吉は丁稚仲間には乱暴者・不良で有名だった。重吉が和吉に親切な理由は、境遇に同情したこともあるが、寝小便癖を知られているからで、正吉は和吉の恩人だからだ。重吉に差別糾弾の意識があったわけではく、彼なりの正義の行動だった。これが町内で問題になるが、小間物屋主人が義侠心からの行動だろう、と裁定して警察沙汰にならなかった。重吉はご寮さんの親戚で、店でも叱られるだけですんだ。ところが、正吉が自分から願い出て日東書店を辞めてしまう。後日村上を通して、和吉には迷惑をかけたくない、という手紙が届いた。

重吉が大事件を起こす。正月の休み、和吉と重吉は新開地で遊んだ。映画館で重吉が他人のガマグチをスリ盗って、警察に連行された。重吉は給金1円だが、それ以上の金を持っていた。毎晩風呂帰りに屋台の鍋焼きうどん(10銭)をおごってくれる。川崎三菱大争議行進で商店街から職工たちに水水を配った時、重吉はお礼にもらったと、財布を見せびらかせた。和吉は常々不審に思いながらも、問い質さなかった。和吉も重吉の暴力を恐れていた。警察の捜索により重吉の持ち物から大金が発見された。重吉は明石の感化院に入れられた。

註　引用はすべて、菊田一夫『がしんたれ』(角川文庫、1961年)より。

補註1　日東書店＝日東舘書林は、1891(明治24)年に石丸甚八が創業。本紙316号・317号「元町・夢街道」を。

補註2　「WEB双日歴史館」に神戸市立女子商業＝同実業商科学校の校舎写真あり。同校創立に際して鈴木商店・鈴木よね、金子直吉が寄付。

https://www.sojitz.com/history/jp/company/post-111.php

補註3　「村上たつま」『新しい潮』について文学史の情報はわずか。菊田は大塚から「神戸では有名な詩人」と聞かされた。中央の雑誌の新人紹介にたびたび登場し、「これから中央の詩壇にうって出ようというクラスの詩人だったことになるかもしれない。関西在住の詩人たちの間では、よく名の通った人だった。〉『がしんたれ』

宮崎修二朗は菊田に関連して村上に言及している。『神戸文学史夜話』(天秤発行所、1964年)には、村上は「神戸新聞通信社」社長本郷直彦の義弟で、謄写版刷りの童謡雑誌を出していた、とある。『環状彷徨――ふるさと兵庫の文学誌』(コーベブックス、1977年)では、「彼(菊田)を文学に導いたのは同人誌『新しき潮』を主宰した村上たつまというクル病の詩人だった」と記している。

季村敏夫『山上の蜘蛛　神戸モダニズムと海港都市ノート』(みずのわ出版、2009年)は民謡・童謡を研究する同人誌『蛇味線』2号(蛇味線詩社、1924年)を紹介する。同人に村上の名があり、野口雨情、蕗谷虹児ら著名人も寄稿している。

珍産商会広告、「神戸新聞」1921(大正10)年8月30日掲載

出来事ファイル（№19－5）

■元町商店街オリジナルバナー登場

元町商店街にオリジナルバナーが登場した。元町の「M」を図案化、その下に、1～6丁目5振興組合をシンプルな縦線で表示、その下に「KOBE・MOTOMACHI・1876」と生誕年を表示、1丁目を白、3丁目を赤、4丁目を緑、5丁目オレンジ、6丁目紺色と色分けして何丁目にいるか、来街者に分かるようにした。山内真一氏の作品。

■明日につなげるコンサート

兵庫県合奏連盟は3月10日(日)12時から15時40分まで、元町一番街特設ステージを舞台に、「明日につなげるコンサート」を開催した。夙川エンジェルコールの「花の街」で幕を開いたコンサートには、根津昌彦氏指揮する合唱団天井花火も登場、「ヒカリノアトリエ」、「島唄」「酒頌」を披露、元町商店街を訪れた人達を美しいハーモニーで歓迎した。

■モトロク灘の酒ストリート

3月22日(金)・23日(土)の両日、元町6丁目商店街を会場に、同商店街と灘五郷酒造組合は、「モトロク灘の酒ストリート」と銘打って、日本酒と兵庫の食と音楽を楽しむ会を開いた。有料試飲会には灘一、寶娘、島美人、徳若、沢の鶴、千代田蔵、松竹梅白壁蔵、浜福鶴、桜正宗、福寿、仙介など19銘柄が勢揃い、5国の食と酒蔵バンドも登場、日本酒愛好家を楽しませた。

■国際楽器音楽教室発表会

3月17日(日)13時から、国際楽器が主宰する大正琴・沖縄三線音楽教室生による合同発表会が凧月堂ホールで開かれた。大正琴の発表では、元町1番街商店街理事長・蓮池國男氏と元栄海1丁目町会長・蓮池利男氏も登壇、「くちなしの花」「大阪しぐれ」を演奏、第2部では「わたしの城下町」「兄弟船」と、懐かしいメロデイで聞く人を楽しませた。

■中央消防団第6分団詰所開所式

中央消防団第6分団詰所が3月8日に完成、同月24日(日)、開所式を開いた。中央消防団・土屋雄司団長の式辞にはじまり、栗岡由樹・中央消防署長、弊協議会の奈良山喬一会長、中央区市会議員・平木博美議員の挨拶、中央消防団・地福保彦第6分団長が謝辞を述べテープカット、鉄骨モルタル2階建延53㎡の詰所がオープンした。

■三國青葉著〝黒猫の夜におやすみ〟

神戸市出身の三國青葉さんから新作「黒猫の夜におやすみ」を贈られた。神戸元町商店街西入り口近くのカフェ『ブラウンタビー』を舞台にはじまる物語の主役は、食いしん坊で、家事はできるが料理下手、28歳のレンタルキャット「猫屋」店主の相良千早と、皮肉屋だが人型にもなれるマイペースの猫ナイトが、きらら広場から神戸市内一円で繰り広げる神戸元町レンタルキャット事件帳の物語。(双葉社刊)

■神戸村の暮らし

3月17日(日)14時から神戸まちづくり会館で「神戸村文書の世界」と題し、神戸大学の大学院生による研究成果発表会が開かれた。神戸村で発生した「天正カルタ事件」、生業である瓦屋の騒動、神戸村の人たちが淀川の浚渫にでかけた話など、これまで聞くことのなかった神戸村に住む人々の暮らしぶりが披露された。主催は神戸大学人文科学研究科、境域委員会、中央図書館。

天正カルタ(一部)

■商店街通行量調査まとまる

元町商店街は1月20日(日)・21日(月)の両日、10時～20時まで通行量調査を実施した。前回の調査と比較して1～4丁目まで、日曜日は増加しているが平日は横ばいか少し減少。5・6丁目日曜日の増加が著しく、平日も増加している。性別比較では、前回調査と同様、1～6丁目へ向かうほど男性の割合が多くなっている。

調査実施日の元町通4丁目

■神戸東地区クリーン作戦

エスタシオン・デ・神戸は、業務の関係で、同社の休日にあたる4月2日(火)30名が、4月3日の定例開催日にはネッツトヨタ兵庫㈱14名、元町通7丁目自治会チーム2名が地域の清掃に参加、神戸駅東地区クリーン作戦を行った。

エスタシオン・デ・神戸のクリーンチーム

ネッツトヨタ兵庫㈱のクリーンチーム